

(仮称)本厚木駅周辺における歩いて楽しいまちづくりの  
推進に向けた提言 (イメージ)



厚木市本厚木駅周辺まちづくり推進会議

令和〇年〇月

## 1 はじめに

---

本厚木駅周辺は、かつて相模川に沿って宿場町や生産物の交易の場が形成され、人や物が行き交う「小江戸」として、大きなにぎわいを有していた。

時代が昭和に移ると、小田原急行電鉄（現 小田急小田原線）が開通し、本厚木駅が誕生した。これにより、本厚木駅周辺を始めとした市全域の現代化は加速し、昭和 30 年の市政誕生以降、土地区画整理事業や市街地再開発事業などが盛んに行われた。平成 24 年には中心市街地の全体構想が策定され、「歩いて楽しいまち」を目指して、まちづくりが行われている。

こうした先人の弛まぬ努力で、現在の街並みが形成され、我々は買い物や通勤通学、医療、娯楽など様々な私生活の場面において、“当たり前”のように利便性のある暮らしを享受していた。

しかしながら、今から約 2 年前に、その日常はガラリと様子を変えた。新型コロナウイルス感染症の拡大である。我々は、この苦難を乗り越えるべく、外出自粛や時短営業、テレワークなどに一丸となって取り組んだ。感染状況は未だに予断を許さない状況ではある

が、この経験が我々の価値観やライフスタイルを変化させ、街中はモノを消費する場からコトやトキを消費する場へと転換するニーズが高まっている。

我が国では、高度経済成長期において、経済的に豊かな国民生活を実現するため、自動車を中心としたまちづくりが進められてきた。本来、まちづくりにおいて、直接的な消費活動を担う歩行者は主役でなければならない。このことを、奇しくも新型コロナウイルスによって、思い知らされた。

本厚木駅周辺においても同じことが言える。私たちは、通勤通学や買い物などを目的に、日々、多くの人達が行き交う、南北の駅前広場を有する本厚木駅と厚木バスセンターの2つの交通結節点を最大限に活かしながら、自動車中心となってしまった都市空間を、歩行者の下へ取り戻していかなければならない。かつての「小江戸」を彷彿とさせるような、にぎわいと心の豊かさを兼ね備えた、さらなる歩いて楽しいまちを築いていくために、次のとおり提言する。

## 2 提言

---

### (1) 歩行者空間の持続的な質向上

単に座れる場所を増やすだけでは、使われる場所にはならない。街中を歩いている人の目線で、ベンチや照明、舗装などの質（クオリティ）を高め、使いたくなる、歩きたくなる、さらには写真を撮りたくなるような空間づくりを進められたい。

こうした空間は、時間とともに劣化や損傷が進み、使いやすさや街並みのイメージなどにも影響する。いつまでも使われ続け、愛されるような空間となるように、メンテナンスのしやすさや維持管理の仕組みと一体的に検討を進められたい。

また、今後、自動運転や電動キックボード、シェアリングサービスなど、私たちの暮らしに大きな変化をもたらす新技術の社会実装がすぐ目の前まで来ている。官民一体で、道路などの官地に限定することなく、民地も含めて将来の変化に柔軟に対応可能な都市空間の形成を進められたい。

## (2)健全な都市環境の形成

駅周辺では、老朽化した建物の建替によるマンション開発が増加しており、今後も、老朽化した建物や青空駐車場などの低未利用地を中心に、住宅に限らず多様な用途による土地利用が図られることが望まれる。

しかし、無秩序な開発は、日照や通風を遮るなど、住環境や街のイメージを悪化させる恐れがある。これに対して、地区計画や建築協定などは、権利者や開発事業者の発意で建物の高さや容積率などをコントロールできる有効な制度である。将来に渡って、住みやすく、歩いて楽しいまちを実現するため、民間によるこうした取組への支援を推進されたい。

## (3)多様なアクセス手段の共存

歩いて楽しいまちの主役は歩行者であるが、まちを訪れたり、駅を利用するための自動車や自転車などのアクセス手段の確保は重要である。しかし、まちなかは土地利用が図られており、道路拡幅が困難である。例えば、自転車レーンが整備できない場合に無理やり車道に自転車を追い出すやり方は、多様なアクセス手段の共存には

なりえない。歩いて楽しいまちを目指して、交通規制の見直しなどとあわせて、歩行者、自転車、自動車ごとに、交通動線の棲み分けを行い、道路の役割にメリハリを持たされたい。

また、歩いて楽しいまちは、ベビーカーや車いすの利用者など、誰もが訪れやすいまちでなければならない。駅員やバス運転手による乗車時の補助、ノンステップバスの導入などが始まっているが、同乗者の理解は未だ不十分と言わざるを得ない。すべての人々が相互に理解を深め、支え合う『心のバリアフリー』の実現が望まれる。

#### (4)公共空間の利活用

新型コロナウイルス感染症を経験し、閉塞感のない屋外での活動ニーズが高まっていることを踏まえ、通行以外の歩行者の滞在や交流が可能となる公共空間の利活用を推進されたい。例えば、一番街通りと厚木バスセンター周辺との間にある県道 602 号本厚木停車場線は、本厚木駅北口駅前から中町交差点までの短い区間でありながら、神奈川県が管理しており、市民主体での利活用が困難な状況に

ある。商店街を中心とした市民主体での利活用を本格化させるためには、県道から市道へ移管することが望ましい。

#### (5)市街地再開発事業への期待

北口側の駅前では、市街地再開発事業の実施を目指して、地権者による準備組合が結成されたところである。街中全体のにぎわい創出や市全体の人口推移を大きく左右する重要な開発であるため、次の3点に留意した準備組合への支援を推進されたい。

一つ目、厚木市の玄関口であるため、可能な限り商業的土地利用を中心とした開発となること。

二つ目、一番街通りや厚木バスセンターなどまちとのつながりに十分に配慮し、建物の表や裏に関係なくにぎわいを創出すること。

三つ目、土地や建物の権利者はもちろんのこと、テナントや市民への情報提供に努めること。

## (6)厚木中央公園の可能性

駅周辺で歩いて楽しいまちを築いていく上で、厚木中央公園は重要な資源の一つである。人が集まりたくなるような魅力的な空間を設えるだけでなく、民間事業者等が有する柔軟性や創造力を活かした多様な利活用を促進し、日常的なにぎわいで溢れる空間とされたい。

## (7)地域資源の活用

かつては、天王町通りや中央通りがまちの中心であった。これらは本厚木駅周辺の歴史を語る上で欠かせない。まちの歴史に精通した市民と共に、まちの歴史を語り継いでいかれたい。

また、大山の雄大な景色や相模川や都市公園などの自然資源は、駅周辺にいながらにして、自然を目で見て、肌で感じて楽しむことができる貴重な存在である。これらの自然資源との関係性にも留意して、まちづくりに取り組まれたい。



### 3 結びに

---

この先も新型コロナウイルス感染症のように、まちづくりの考え方を大きく変える出来事は起こり得るであろう。我々は、提言に当たって、これからも本厚木駅周辺はもとより厚木市全体がさらなる発展を遂げるため、できうる限り未来を想像しながら議論を積み重ねてきた。

この提言書が、予測困難な時代においても、厚木を愛し、ひたむきに街の発展に挑み続ける市民や行政が一丸となって取り組むまちづくりの一助となることを願う。

また、我々もこの提言に満足することなく、それぞれの立場を最大限に活かして、官民連携の旗振り役として、まちづくりや市民活動をリードする所存である。

厚木市本厚木駅周辺まちづくり推進会議

委員一同

(参考) 厚木市本厚木駅周辺まちづくり推進会議について

○委員一覧

No.	区分	所属及び役職	氏名	専門分野
1	委員長	東海大学工学部土木工学科教授	かじた よしたか 梶田 佳孝	都市計画
2	職務 代理者	中心市街地大規模小売店舗・商店会ネットワーク連絡協議会会長 ( (一社) 厚木市商店会連合会会長)	さいとう ひろし 齊藤 裕	商工業
3	委員	厚木北地区自治会連絡協議会 (西仲自治会会長)	みき ともゆき 三木 智之	自治
4	委員	厚木南地区自治会連絡協議会 (旭町4丁目自治会会長)	さくがわ しげる 作川 茂	自治
5	委員	厚木市まちなか活性化プロジェクト会長 (厚木 なかちょう大通り商店街振興組合代表理事)	む かむら けんぞう 六ヶ村 健三	商工業
6	委員	厚木商工会議所青年部会長	なかの のぶひろ 中野 信博	商工業
7	委員	小田急電鉄(株)まちづくり事業本部 エリア事業創造部課長	にしむら やすお 西村 靖生	交通・ まちづくり
8	委員	神奈川中央交通(株)運輸計画部課長	さとう しょうた 佐藤 勝太	交通
9	委員	東京工芸大学工学部建築学科教授	やつお ひろし 八尾 廣	建築
10	委員	公募市民	いまい つかさ 今井 つかさ	
11	委員	公募市民	ひらの たかひろ 平野 孝裕	
12	委員	公募市民	ひろた ゆみ 広田 由美	

【任期】 令和3年8月16日から令和4年7月31日まで

## ○会議の開催状況

<b>第1回 9月2日(木)〔書面会議〕</b>	
〔目的〕 附属機関の目的と新たな計画が目指すものの共有	
(1) 委員長の選出について	
(2) 会議等の公開に関する要綱等について	
(3) (仮称)本厚木駅周辺歩いて楽しいまちづくり推進計画策定方針について	
(4) 計画の策定イメージについて	
(5) 推進会議の成果について	
<b>第2回 11月8日(月)</b>	
〔目的〕 まちのポテンシャル、目指すまちの姿の協議	
(1) まちのポテンシャルについて	
(2) 目指すまちの姿について	
<b>第3回 12月24日(金)</b>	
〔目的〕 目指すまちの姿、施策等の協議	
(1) 目指すまちの姿について	
(2) 施策について	
(3) 提言書のイメージについて	
<b>第4回 2月〇日(〇)</b>	
〔目的〕 目指すまちの姿、施策等の協議	
(1) 目指すまちの姿について	
(2) 施策について	
(3) 提言書のイメージについて	
<b>第5回 〇月〇日(〇)</b>	
〔目的〕	